



第 21 回

夢追い人たちの 41 作品を読んで

第 13 回「夢アイデア」。本気で考えた夢とアイデア 広がる視野と優しさ、潤いを求めて

平成 27 (2015) 年 12 月

「夢のようなことを、本気で考えよう」。

建設コンサルタントが主催する今年（平成 27 年）の「夢アイデア」のキャッチフレーズだった。

「夢」について、本気に考えたのは、文化庁長官だった故・河合隼雄さん（心理精神学者）を長官室に訪ねたときだった。その文章とは似ても似つかぬ無骨な第一印象を与える人だったが、話を聞いているうち、人柄の優しさに包まれてゆく不思議な人だった。

話しは名僧「明恵」（1173～1232）になった。誰でも一度は見たことがある、あの木の上で座禅を組む僧侶の絵の人である。明恵上人は亡くなるまでの 40 年間、毎日見た夢を記録し続けた「夢記」を残している。良い夢は成仏につながると信じてのことである。

そう、夢を本気に追う人は、幸せをつかめる、と応募作品の一つ一つを読みながら思った。交流会での発表に 11 人が選ばれて、それぞれの「夢」を語るプレゼンテーションは「情熱的」で「素朴」で、何より「本気」だった。夢を一生懸命、語るということは、切実な自分の思いを実現したいという意思の表れでもある。単なる夢想、あるいは妄想であれば、こんなにも本気に、まじめに夢を語りはしない。そんな場を作ったこの「夢アイデア」イベントはそれだけで成功だったと感じた。

今年の応募作品 41 篇には、特徴が幾つかあった。その一つが、自分の暮らす「地域」「暮らしの場」を全体的に見て、もっと安らぎのある場にしたいという夢とアイデアが多かったことである。長崎の街、福岡・西新の改造、あるいは大学近くの雑木林の活用、広島・宮島口の「海またぐ緑の門前町」づくり提案。かつての産炭地・飯塚を明るく元気な「現代アートの街」に変貌させようという夢を追って活動をしている報告には、旧来の荒れた筑豊イメージにとらわれている者には、意表を突かれた思いだった。

これまでの提案はどちらかと言えば、公園や学校などの個々の施設を楽しく便利にする個別のアイデア主流だったように思う。今年は視野が大きく広がった「夢アイデア」の提案が多かった。同じ施設改造の提案でも、例えば優秀作品に選ばれた「医療現場にセラピストの導入」や「保育ホーム—新しい幼老施設」の提案、高度

経済成長時代の賃貸団地の高齢者向け大改造、流域経済圏の再生など、地域を丸ごと改造しようとする夢・アイデアが多かった。

「幸せの村づくり」など中山間地・離島の再生案から、新幹線の登場で使われなくなった鉄道駅や引き込み線の活用など、新しい生命を吹き込もうとする様々なアイデアは「成程、なるほど」と楽しませてもらい、一緒に実現を願う気持ちにさせられる提案だった。

その一方で、圧倒的な国民が暮らしている都市を働く場だけでなく、日々「暮らす場」として進化させたいという思いは、特に様々な夢・アイデア提案になって表れ、今回の特徴でもあった。

繁華街・東中洲を流れる博多川に「イベント広場を」「藤崎をタイムズスクエアに」の提案から、「交番にベンチを置いたら」の小さなアイデアまで、都市改造までにはいかないものの、都市に潤いのある場づくりの提案も目立ち、強い印象を受けた。高層ビルが建て込み、便利さと効率化を求めた結果、交通渋滞が日常化し、あの東京・市日や駅前の交差点のように若者に合わせたスピードと賑わい街は、老人や幼い子供たちを置いてきぼりにするなど、ひたすら機能の充実を追い続けて肥大化してきた都市。そこを一滴の潤いの水が湧く、暮らしの場に改造したい、そんな思いからくる、小さいながら都市の性格の方向転換を指さす夢・アイデアと読み取れた。

「本気」には、何より持続する志が必要だ。過去の夢アイデアの具体化、実践化を探る「夢を夢に終わらせない」提案が目立ったのも、この「夢・アイデア」10年の年輪を感じさせる。夕日風景時計のように、賛同の輪が広がり、さらに次の一步を目指す「持続する志」の実践例には学ぶことが多かった。

特に、次世代の人々にその志を引き継いでほしい。

平戸の農業高校生グループによる、「ダンチク」を肥育牛の飼料に活用する「雑草を活かした企業との地域活性化」の実験的挑戦は最優秀作品に選ばれるだけの「夢の大きさと本気度」が込められていた。耕作放棄地に我がもの顔で群生するダンチクを使った安価な飼料で良質の肉牛を飼育しようというこの試みは、日本農業をこれから担う若者たちの「夢と未来」が伝わり、頼もしく、また、外国農産品にひるむ気持ちを奮い立たせてもらった。

夢を追い、本気に挑戦する若者たち。彼らの、持続する固い志に期待したい。（完）

玉川 孝道（西日本新聞元副社長）

夢アイデア審査委員長（平成22年～令和2年）